

キタ
喜多堂

小林佐兵衛 没後百年

小林佐兵衛の名を知る人は現在では殆どおられませんが、この佐兵衛が残した業績がいまの大阪市民の生活の大きな礎となっており、大正六年にその佐兵衛が亡くなってから今月二十日でちょうど百年となります。

本名は明井万吉といい、通称「あか万」「明石屋万吉」の名で知られ、当宮の氏地範囲である北野村で育った人でした。

幼い頃に父の出走で苦勞を重ね、その中で世間にもまれ反骨精神を養い、既に十代半ばで一端の仁侠者として知られるようになり、特に天保の改革の失敗で米価が高騰した折、米市場に殴り込みをかけて米価を暴落させた事で、市民を救済した御買米妨害事件でその名が世に知られ、いつしかキタの大親分として慕われました。

この佐兵衛の残した大きな業績に、消防と社会福祉があり、消防は明治六年に大阪府知事であった渡邊昇からの懇請で、大阪の北大組(現在の北区)の消防頭取に就任し、北区の消防の一切を指揮する事となり、これが現在の大阪市消防局北消防署の前身となっています。この当時は「火消し壺佐兵衛」とも呼ばれ、明治四十二年の北の大火で大阪天満宮の延焼を命がけで防いだ話は有名です。

社会福祉においては、維新後の政情不安で、大阪に浮浪者が溢れていた明治十八年に、浮浪者に生「産」技術を「授」ける「場」を設けるべく、小林授産場を開設し、世の中に役立つよう職業訓練を指導しました。これは当時としては画期的なものでした。

他にも茶屋町の私営遊園地や、大坂相撲、新撰組との関係、街灯の点灯屋など様々な逸話がありますが、詳しくは司馬遼太郎の「浪華遊侠伝 俄」などをお読み頂くと百年前の大阪の様子なども分かって面白いものです。往來安全を掲げ民間の立場で明治維新でボロボロになった大阪の立ち直りに尽力された小林翁を、百年目のいま改めて敬意を表する思いです。

氏地案内「小松原町」

当宮は氏地として旧北野村である、北野連合振興町会、梅田東連合振興町会、万歳町、西天満六丁目、中崎西二丁目一部、曾根崎一丁目一部の氏神さまとして鎮座いたしております。氏地案内の五回目は当宮御本社の西方に位置します小松原町についてです。

小松原の地名については当宮所蔵の『北野村領境総絵図(寛延三年・一七五〇)』に小松原の字が既に見える事から、三百年以上前から呼ばれていた地名である事が分かります。

町名の由来については記録されたものが無い為はつきりとした事は分かりませんが、恐らくは、室町時代に起きた当宮の七本松の靈瑞に由来するものであるうと思われれます。

近世には一面の菜の花畑が広がる田園地帯であったようで、明治初期に至っても古地図などを見る限りでは田畑しかない地でした。

そんな小松原の地に、明治十八年(一八八五)に上述の小林佐兵衛の私営による現代で言う職業訓練所にあたる「小林授産場」が設けられ、市中の浮浪者や身寄りの無い人を受け入れ、生活が出来るよう職業技術を身に付けさせました。いわば大阪の社会福祉の草創の地でもあります。明治二十四年の濃尾地震の被災者を受け入れたという記録もあり、大阪駅前という立地を活かしての広範囲の福祉活動も行っていたようです。

明治中期から市街化が進み、明治二十七年には小林授産場も更に北の牛丸町(現在の芝田二丁目)へ移転し、跡地には住宅が立ち並びましたが、第二次大戦の戦災で焼け野原となり、復興後の昭和三十七年に更に「小松原の大火」と呼ばれる大火事が起きた事で、住宅や小店舗は姿を消し、現在は再開発による大規模施設が連なり、関西有数の歓楽街となっています。

梅田の中でも特に変化の大きい町の一つですが、情に厚い人々の往來の地でもありました。

神社携帯サイトのQRコード

ドコモ、ソフトバンク、
au、モバイルPC 対応



編著 網敷天神社

禰宜(神主)

白江 秀 知

